

## 第25回里川文化塾

### 忍城の水利用 参加者募集中!

ミツカン水の文化センターでは、「使いながら守る水循環」を学ぶための「里川文化塾」を年に数回開いております。

第25回目となる今回は、小説および映画『のぼうの城』で一躍有名になった「忍城」を舞台に開催します。

忍城は、沼地のなかの地形を巧みに活かして建設され、室町時代から明治初年にかけて存在した城です。水郷のなかに点在する様はまさに要害。「難攻不落の城」として名高かったと伝えられています。

山城に代表されるように、そもそも城は見通しの利く高台に設けられることが多かったため、飲み水の確保に苦勞し、井戸は必須でした。そうした城と水の関連も視野に入れつつ、湿地帯につくられた「忍城」の水利用について行田市郷土博物館 学芸員の澤村怜薫さんに解説していただきます。

豊田秀吉の命を受けた石田三成が忍城に仕掛けたと伝わる「水攻め」の跡地（「石田堤」と呼ばれる堤防）も巡り、城にかかわる水利用について学びます。

日時：2016年11月27日（日）9:30～17:00 ごろ  
（小雨決行。荒天時の順延日＝12月11日（日））

フィールド：埼玉県行田市

座学会場：行田市郷土博物館（埼玉県行田市本丸17-23）

集合・解散場所：[集合] 9:30 JR 東日本・秩父鉄道「熊谷駅」北口  
→貸切バスで行田市郷土博物館へ移動

[解散] 16:45 ごろ JR 東日本・秩父鉄道「熊谷駅」北口  
（交通状況により遅延の可能性あり）

当日の予定：午前中＝講師による座学。館内見学

午後＝さきたま古墳公園内の「丸墓山古墳」

および「石田堤」の史跡を視察

※上記は予定です。変更する場合がございますので、  
詳しくはホームページをご覧ください

講師：澤村怜薫 さん（行田市郷土博物館 学芸員）

2016年11月27日（日）開催決定！  
（埼玉県行田市周辺）

※小雨決行。荒天時の順延日は12月11日（日）



忍城の本丸跡に建てられた三階櫓（模擬）と堀



「水攻め」のため石田三成が陣を張ったといわれる「丸墓山（まるはかやま）古墳」



石田堤の痕跡。予想以上の雨量でこの堤が切れて「水攻め」は失敗したとされる

## 【里川文化塾 開催報告】

### 第24回里川文化塾

#### 「丘陵地を水田にした熱意の結晶『二五穴』」

本誌53号でお知らせしました第24回里川文化塾「丘陵地を水田にした熱意の結晶『二五穴』——100年経っても現役のトンネル用水路を巡る」は、予定どおり2016年7月31日に開催しました。

「里川文化塾」は、参加なさった方々以外にも内容を知っていただくために、終了後に「開催レポート」を公開しております。ぜひご覧ください。

山を刳（く）り抜いた「二五穴」と用水路



### 里川文化塾「開催レポート」

<http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/houkoku/>

## 【水の風土記 最新インタビュー】

### 海のない地域に残る「海魚の食文化」～「魚尻線」がもたらしたもの～

魅力あふれる独自の「水の文化」を培っている「人」や「事・場」を訪ね、研究や活動を紹介する「水の風土記」。人にフォーカスする〈水の文化 人ネットワーク〉で「魚尻線」を取り上げました。

海のない山梨県で、今もマグロの刺身が多く食べられている理由が魚尻線です。山梨県立博物館 学芸員の植月学さんに山梨県における海魚の食文化と魚尻線についてお聞きしました。



植月学（うえつきまなぶ）さん  
山梨県立博物館  
学芸員

（2016年8月公開）

### 水の風土記

<http://www.mizu.gr.jp/fudoki/>

## 水の文化 Information

### ■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

### ■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

### ■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

### ■里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今後の企画についても、順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

## 皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』54号について、アンケートにご協力ください。  
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<http://www.mizu.gr.jp/form54.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて  
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX : 03-6685-7596

メールアドレス : [tokyo-office@mizu.gr.jp](mailto:tokyo-office@mizu.gr.jp)

### 編集後記

昆布ロード、古式捕鯨、焼物の縁、追分、調査し取材するまで知らないことばかりだった。歴史の勉強不足も痛感した。これからも海や川を見る機会は数多くあるだろう、その時には先人達の積み重ねてきた営みや想いを想像してみたい。さて、今号は皆さんに先人達の知恵や想いは伝わっただろうか？（後）

実はミツカン創業の酢も、江戸時代に弁才船で尾張から江戸へ運ばれた。そして、江戸で握り寿司の食文化が開花するのを下支えた。色んな文化の陰に和船あり。当時の船は木材にリサイクルされたりして残っていないが、運んだ文化の痕跡は確かに残っていた。（松）

昨年の里川文化塾で「昔は大量の荷を運ぶには船が最適の方法だった」と伺った。縦に長い島国で山がちな地形が多いこの国で、確かに舟運は不可欠だったのだと今回改めて感じた。和船は人や荷と同時に、文化やロマンも運んでいた。そう思うとワクワクする。（原）

想像もつかない場所同士のつながりがあったことを知り、形あるものだけが、船で運ばれたのではなかったことを知った。船に乗って人が往来し、交わりが何かを生んだ。今も昔も交わりは何かを生む。当たり前のことかもしれないが、再確認できた号だった。（吉）

現在の輸送はスピード重視。目的のモノだけを求めれば実に便利な世の中だ。今回の取材で思い知ったのは、圧倒的な時間感覚の違い。時間をかけて、様々な場所を経由して時には変容し、目的のモノとともに運ばれた文化は魅力的だった。そして私は本誌人稱に追われています……（力）

海の道の雄大さ、自由さを実感した号でした。和歌山の太地町は陸路だと少々不便でも、海を道と考えると伊勢湾や瀬戸内海、四国も含めた大きな交流圏の要衝です。ときに大荒れとなる海を、危険を承知で行き来した人々のことを考えると、今の通念にとらわれず、もっと自由に生きていいのかなとも思いました。（前）

### ミツカン水の文化センター機関誌

## 水の文化 第54号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル 4F

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ

ミツカン水の文化センター 事務局

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-11-3 中銀 NM・5F

Tel. 03 (6264) 9471 Fax. 03 (6685) 7596

発行日

2016年（平成28）10月

企画協力（氏名50音順）

沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学教授

鳥越皓之 大手前大学学長

中庭光彦 多摩大学教授

制作

後藤喜晃

松本裕佳

小林夕夏

原田朱野

吉田奈保子

編集製作

前川太一郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

執筆

佐々木 聖 (pp.5-8, pp.22-26)

手塚ひとみ (pp.16-21)

開 洋美 (pp.10-15, pp.38-39)

前川太一郎 (pp.27-33, pp.45-49)

撮影

大平正美 (pp.16-21)

川本聖哉 (pp.9-15, pp.22-26, pp.38-39)

鈴木拓也 (pp.27-33)

中野公力 (p.6, p.17, pp.45-49)

藤牧徹也 (pp.10-14, pp.40-44)

DTP

蔵田 豊 (p.34)

印刷

中塾総合印刷株式会社